

## 令和2年度、令和3年度 伝承あそび研究会 活動報告

初等教育科 島田知和

### 1. 伝承あそび研究会について

伝承あそび研究会は、平成30年度より活動を開始し、今年度で4年目となる。伝承あそび研究会では「けん玉」「あやとり」「お手玉」「かごめかごめ」など、時代を超えて子どもたちの間で愛され、受け継がれてきた伝承あそびの魅力に迫り、その楽しさを子どもたちに伝えていくことを目的としている。

写真1. 研究会が実際に使っている玩具



### 2. 伝承あそび研究会活動報告

伝承あそび研究会2年間の活動を表1に示す。この2年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前のような保育園や幼稚園への訪問ができなかった。そのため主な活動として、昔からある玩具に触れ、その楽しさを理解すること、学内外の行事に参加することが中心となった。さらに令和2年度より別府大学・別府大学短期大学部オープンエデュケーションルー

ムの一環として「わらべうたlibrary」の撮影も行なった。

表1. 伝承あそび研究会活動内容

日時	活動内容
令和2年10月1日	オープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」撮影
令和3年6月9日	けん玉、コマ、あやとりなど
令和3年6月23日	型抜き
令和3年7月28日	竹水鉄砲づくり
令和3年8月4日	オープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」撮影
令和3年12月1日	Winterフェスティバル
令和3年12月24日	劇団立見席演劇祭
令和4年1月4日	凧揚げ、羽子板

次に各活動の概要を報告する。

#### (1)オープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」

令和2年度から参加させていただいたオープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」では、仲嶺まり子先生よりご指導いただきながら、一般の方々に向けて児童文化財を通して子どもの遊びを伝えていくために手遊び歌やわらべうたの実演を行なった。令和2年度には、かぞえうた「ひいふうみいよ」、まり

つきうた「あんたがたどこさ」のお手玉遊び、まりつき遊びを行い、令和3年度には手遊びうた「きつねがね ばけたとき」、手合わせうた（ジャンケン遊び）「おてらのおしょうさん」をペープサートを使いながら実演した。

## (2)竹水鉄砲づくり、凧揚げ、羽子板

7月と1月には季節に合った伝承あそびとして「竹水鉄砲づくり」、「凧揚げ、羽子板」を行なった。

竹水鉄砲づくりでは実際に竹から切ることから行い、より遠くに水を飛ばすためには、どのような材料を用いて、どのような点に配慮して作ればよいか試行錯誤しながら作成した。

凧揚げ、羽子板あそびでは、別府国際観光港多目的広場にて行なった。当日は風もよく吹いており、何度か繰り返すことによって、安定して飛ばすことができるようになった。

## 3. 伝承あそび研究会2年間の活動を振り返って

2年間の活動を振り返り、学生からの感想を記載する。

私は研究会の活動を振り返って「研究会の楽しさ」を学ぶことができました。

1年生のときに研究会活動がほとんどなく、研究会で何をするといいのか全く分からないなかで2年生になりました。自分たちが研究会を引っ張っていかなくてはいけない立場になってしまい、今までは何をしていたのかや今何ができるのか、自分たちは何をしたいのか、少しずつでも活動ができるように先生や1年生たちと考えました。そして、竹水鉄砲や凧揚げなどの活動を行うことができました。研究会活動がなければ1年生と関わることもなかったと思うし、わくわくフェスティバルや演劇祭で子ども

たちと関わることもなかったと思うので、とてもいい経験ができて研究会に入って良かったと思います。

2E 三浦りりか

2年間を通して研究会で学んだことは、どのような遊びがあるのかをまずは知ることとその遊び方を事前に理解しておくということが大切だと思いました。子供たちが楽しんで遊ぶためには保育者から楽しんで活動することが大切だと思うのでそこを忘れないようにしたいと思います。これからもたくさんの昔の遊びに触れていってほしいと思います。

2E 松山新菜

## 4. 今後の展望について

伝承あそび研究会が発足し、4年経った。令和2年、令和3年がコロナ禍にあり、これまでのような活動も思うようにできなかった。また感染症対策のため、主に外で活動できるものを中心に行なった。本来であれば、私たち自身がまず伝承あそびの面白さを理解し、そして保育園や幼稚園等で子どもに面白さを伝えていくことを目的としている。今後の展望として、子どもたちへ伝承あそびの魅力や楽しさを伝えながら、子どもたちとの関わりについて、実体験を通して学んでいきたい。